



高橋丈夫社長

K&Oヨウ素は、世界的に拡大するヨウ素需要に対応するため供給基盤の拡充を推進する。顧客からの強い増産要請を背景に千葉工場で増産投資を進める一方、グループ会社との連携や独自技術の活用などにより原料かん水の採取量の拡大に取り組んでいく。同社では、バージン・ヨウ素の供給に特化したビジネスモデルのもと、ペロブスカイト太陽電池などの新規用途に対しても確実な原料供給を通じて貢献していく方針。

千葉工場では精製工程の2系列化に向けて新棟を建設。昨年秋季には自動化を進めた第1系列を完成させ稼働を開始しており、第2系列についても2027年中の完工予定で準備を進めている。また、ハンドリング性に優れる球状のプリル品については新設備を導入しており、26年に自社製造品を市場投入する計画だ。これら取り組みにより、ヨウ

千葉で精製工程2系列化 未利用かん水の増設進む

K & Oヨウ素

化カリウムを含むヨウ素の供給能力を27年までに年間1900トへ引き上げ、30年代には同2000ト超へと拡大する方針。

増産に不可欠な原料確保については、グループ会社の関東天然瓦斯開発による新規ガス井の開発や既存井の能力増強を進めている。また、未利用かん水を活用する独自の「井戸元吸着設備」増設を進めており、27年までに同設備単独で約100ト/年(ヨウ素換算)の増産を実現する。

並行して企業の持続的成長に向けた基盤強化も推進している。基幹システム刷新に続き、製造データの一元管理や27年稼働予定の自動倉庫導入など製造分野でのDX(デジタルトランスフォーメーション)を加速。また、能力開発を重視した人事処遇制度への改定や65歳選択定年制の導入など、人財面からも次世代を見据えた体制構築を図っていく。

近年の高騰する製造コストに関しては、自社努力とともに適正な価格転嫁への理解を求めていくことで事業継続と設備投資を確保していく。